みみたん通信

京都市手話学習会「みみずく」
本部機関紙部発行
会長　石神　博行
事務局 FAX 075(812)6112
みみたん通信　第 57 号
http://33zk.sakura.ne.jp/
2023年　10月　1 日発行

みんなで Go！　創立 60 周年記念式典
明日につなぐ～ろう者と手話とみみずくと～

皆さん、ご存知のように今年は、「みみずく」会が生まれてから 60 年となる記念の年です。

私たちは、まだコロナ禍だった一昨年の 12 月に、「みみずく 60 周年記念事業実行委員会」を立ち上げました。本当に短い準備期間にも関わらず、実行委員の皆さんの奮闘により、いろいろな企画が順次行われてきています。そして、来る１０月９日「みみずく６０周年記念式典」が嵐山の全国手話研修センターを会場に開催される運びとなりました。

この時期、この式典の意義は非常に大きいと私は考えています。例えば、

１　コロナ禍を乗り越え、活動の再開を確認する。

２　「みみずく」会 60 年の活動の歴史を学び、今の社会情勢を視野に入れながら、これからの手話活動を構想する。

３　手話に関わる多くの皆さんと交流する。

その他、いろいろな意義が、それぞれの皆さんの胸中にあるのではないでしょうか。

「みみずく」会員のみならず、市聴障協、京通研市内班、手話に関わる多くの皆様と共にお祝いしたいと考えています。皆さま、お誘いあわせの上、ぜひご参加下さいますよう、よろしくお願いします。

行こう、行こう、みんなで行こう！みみずく６０周年記念式典！！

京都市手話学習会「みみずく」　会長　石神 博行

～　目次　～

1…みんなで Go! 創立 60 周年記念式典
2…みみずくゆかりの地巡り
3…人生を変えてくれたみみずく会
4…暮らしを考える集会
5…鴨川納涼 2023
6…手話奉仕員養成講座／文化のつどい
7…U35 三団体 BBQ／活動助成金
8…行事予定／手話劇／編集後記

～　京都市手話学習会「みみずく」目的　～

手話を学んで、ろうあ者の良き友となり、全ての人に対する差別や偏見をなくしていくために努力し、その活動を通じて私たち自身も向上していく

みみずくゆかりの地巡り

60 周年記念行事として 5 月 27 日（土）に「みみずくゆかりの地巡り」を開催しました。当日は 26 名（うち、ろう者 6 名）に参加いただきました。当日は講師（持田さん）1 名、補足説明者（小山さん）1 名、手話通訳者（鈴木さん、蔭山さん、普賢さん、石神さん）4 名の方々にご協力いただきました。ありがとうございました。

当初は少人数案もありましたが、できるだけ多くの人にみみずく会の歴史を共有していただくためにこの人数での実施となりました。参加費負担を少なくするために、行事保険費用は 60 周年委員会で負担し、交通手段は市バスを利用しました。市バス一日券と昼食代のみ各自負担としました。

市バスは同じ目的地でも複数系統のバスがあり、混雑度合いも事前には想定が困難でした。そのため参加者を 3 グループに分け、それぞれのリーダーの判断で最も適切な系統のバスを利用することにしました。最大の心配事は天候でしたが、雨もカンカン照りも免れてちょうどよい天候で実施することができました。

朝はハートピア京都前に集合しました。ここは以前、府立勤労会館があった場所で、長らくみみずく会の例会場を担ってきた場所であると説明がありました。

イズミヤで休憩し、昼食の購入などをした後、京都市聴覚言語障害センターの跡地を訪問しました。高野交差点近くで、現在は大きな団地になっていました。昔は、みんなの拠点として機能していましたが、市電廃止と共に不便になりました。みみずく会も市内各所からの参加が困難になり、支部設立の機運が高まったとの説明がありました。

その後、糺の森の停留所近くの京都府立視力障害者福祉センターに行き、木陰で説明を受けました。ここは京都府立身体障害者福祉センター跡地で、聴覚障害関連施設もあったことからみみずく会の事務所も置かれていたそうです。

次に船岡山公園へ移動し、広場で集合しました。船岡山公園では昼ご飯を食べながら「3・3 声明」のきっかけになった授業拒否事件について説明を聞きました。

その後、徒歩で京都ろうあセンター跡地に移動しました。京都ろうあセンターは、高野の京都市聴覚言語障害センターの前身であり、床が安普請のため 2 階の人数（重量）制限があったという話を聞きました。

次に文化庁前・府庁前まで移動し、第二赤十字病院に行きました。ここで勤務していた看護師さんが中心となってみみずく会を誕生させた記念すべききっかけとなった場所と説明がありました。また、救急車ロータリー横には日本最初の盲唖院の創建碑が置かれています。

最後は四条高倉まで移動し、徒歩で佛光寺まで移動しました。佛光寺はみみずく会が合宿で使用していた場所で、講師の当時の思い出などを聞かせていただきました。

開催の少し前にバス停の名前が変わるというハプニングがあり、資料の記載を変更したり、バス案内図にない系統のバスが走っていたりして、準備が大変でした。また、カンカン照りではないにせよ、大変暑く、途中でリタイアする人も出るほどでした。途中涼しいところで休憩できればよかったのですが時間の都合上強行スケジュールとなってしまいました。

ご参加された皆さん、ご協力いただき本当にありがとうございました。

60 周年記念実行委員会その他企画　鶴来明

「みみずく」創立 60 周年にあたり、橋本様より寄稿をいただきました。２号に渡り掲載させていただきます。

人生を変えてくれたみみずく会 〈その1〉

2023 年６月の市暮らし集会に参加したおり、みみずく会からも活動報告があり、近く 60 周年記念集会をやるとのこと。そこで、例のごとく後ろの席で何かの受付をやっていた「もっちゃん」（持田隆彦氏）に、「元会員として何か書かせてくれないの？」と尋ねたら、「前に頼んだよ」との返事。

ということで、みみずく会について思い出すまま、書かせて貰うことにした。

今から、計算すると 55 年前、当時２４歳の、孤独な全ろう青年の私は、先の見えない人生に暗澹たる気持ちで毎日を送っていた。孤独と書いたがオーバーな表現でなく、今から振り返ると当時はそうとしかいいようがなかった。24 歳といえば青春の真っ盛りであり、いろいろ夢や将来に対する希望を持っていていい年頃だ。

しかし、当時の私は高校卒業後、かろうじて就職できたきもの帯のデザイン会社に勤めながら希望のない毎日を送っていた。家のあった岩倉から通う京都バスに乗って、大原にあった会社に通った。

唯一の慰めというか、やっていたことのひとつが短歌だった。下手ながら、聞こえないことの鬱屈を短歌に吐き出していた。周りはすべて聞こえる人で、コミュニケーションといえば家でも職場でも、必要なことを簡単な筆談で伝えて貰うだけだった。

《 バス待ちて今朝も見上げる空の果てこころ晴れるはいつの日のこと 》

当時作った拙い作品だ。その私が手話と出逢うのは、これも短歌のおかげだった。

忘れもしない、四条通を歩いていたとき傍らにあった本屋に立ち寄って、あれこれ気になる本を立ち読みしていた。そのとき、偶然「塔」の薄っぺらい歌誌を見つけた。「塔」は京都にある結社なので、会員拡大を兼ねてこうした本屋にも歌誌を置いていた。

ぱらぱらとめくっているあいだに偶然、伊東雋祐氏の歌集の記事を目にした。あの手話通訳者として有名な伊東雋祐氏は、ご存じの方も多いと思うが、ろう学校の先生をやりながら塔の歌人としても活躍していた。

その歌集の名前は「声なき対話」だったと思う。ともかく、その宣伝の文章を読んでいて、伊東先生に興味を持ち、ろう学校に訪ねていった。今思えばそれが「運の尽き」だった。

こう言えば、亡くなった伊東先生は苦笑されるだろうか。伊東先生に出逢ってみみずく会に紹介されたことで、私の人生は大きく方向転換することになった。先生に出逢わなかったら、私の人生は孤独ではあっても、短歌を友として静かで穏やかなものになっていたはずだ。

さて、紹介されたみみずく会にはじめて行ったのは、烏丸丸太町の南東にあった、今は「ハートピア京都」と名前を変えている京都府立勤労会館だった。部屋に入ってみると、みんな手を動かしている。私には何をやっているのかまったく分からなかった。分かったのはそれが会話をしていること、更に重要なことは若い女性がたくさんいたこと。これだけだった。

ともかく手話を覚えれば、他のろうあ者と同じように若い女性とも会話ができるらしい。そうすれば諦めていた結婚への道筋も開かれるかもしれない。そんなよこしまな気持ちで通い始めた。

しかしながらである。しかしながら皆さんが何を話しているのかさっぱり分からない。気を遣って筆談で教えてくれる女性も現れない。これはどうしたことだ？　戸惑いながらさっぱりわからない例会に通い続けた。　≪次号に続く≫

橋本英憲

第 21 回聴覚言語障害者の暮らしを考える集会

6月 25 日（日）10：00～16：00 京都市聴覚言語障害センターで、暮らし集会が開かれました。参加者は 92 人でした。
午前は、全日本ろうあ連盟理事の嶋本恭規氏より「障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法って何？」をテーマにご講演いただきました。
午後は、講演を聞いて意見交換が行われました。

【集会に参加して】

みみずく山科支部に入り、２年目になります。まだまだ知らないことが多く今回、各団体の活動報告を聞きはじめて知る団体もありました。
講師　嶋本さんの講演後の意見交換のときに出た質問で「聞こえない、聞こえにくい人は実際どんな場面で困ったか」これについてたくさんの方がさまざまな場面で情報の不十分さや理不尽さ、スムーズにことが進まず苦労をされていました。まだまだ手話を要する場所に手話ができる人がいない現状。幼いうちから手話を学ぶことが当たり前の社会になれば、みんなが同じように住みやすい社会になると思いました。

山科支部・夜の部　大村久美子

聴覚障害者の暮らしを考える集会に午後から参加しました。
嶋本さんの趣味から始まって、会場が一気に別の世界にいった感じがしました。それは参加された人の趣味や興味の対象に手話通訳が必要かどうか、自分の生活に密着したところで考えることの必要性も感じました。
私は、聴覚障害者が具体的に受けている不利益、生きづらさや差別を分かっていませんでした。
趣味はお金をかけるから自己責任という流れをいったん認めると、本来の人間の生きていく文化的権利も見えなくなる。生活から見えてくる差別、不平等。これからどうしたらよいのか、すごく問いかけられました。
最後に、今後障害者差別はなくなるのかという質問に、嶋本さんは究極的にはなくならないと言われました。
また、いったん戦争が起きてしまえば、あらゆることができなくなるのだとの答えは胸に迫りました。

山科支部夜の部　小山みち子

～ 聴覚障害者の豊かな暮らしを築く京都市ネットワーク委員会の構成団体 ～

①京都市聴覚障害者協会
②NPO 法人京都市中途失聴・難聴者協会…聴覚障害者（難聴者）
③京都聴覚言語障害センター　家族会
④京都言友会
⑤京都手話通訳問題研究会　市内班
⑥京都市要約筆記サークル「かたつむり」
⑦全国福祉保育労働組合京都地域中京支部　聴言分会
⑧京都市手話学習会「みみずく」

鴨川納涼 2023

８月５日（土）６日（日）に「鴨川納涼」が開催されました。県人会による名産品の販売や、舞台発表、友禅流しの実演など、コロナ規制が緩和された今年は、海外の方も多く訪れ、たくさんの人で賑わっていました。

京都府聴覚障害者協会のブースでは「手話体験コーナー」が設けられ、私は初めてお手伝いに参加しました。「手話を体験してみませんか」「手話体験いかがですか」と行き交う方々をお誘いし、担当時間内に２組が体験されました。

「昨年も寄せてもらいました」とおっしゃる、２歳の男の子を抱っこしたご夫婦。手話での冗談が理解できた時には、豪快に笑い、心の底からコミュニケーションを楽しんでおられるご様子でした。「来年もまた会いましょう」と手話で話し、笑顔で帰られました。もう１組は「友達です」とおっしゃる女性のおふたり。筆談する手も震えるくらい緊張したご様子でしたが、最後まで伝えようという気持ちが、こちらにも、ひしひしと伝わってきました。わずかな時間ですが、この体験を通して、何か感じてもらえたらいいなという気持ちでいました。

私自身もいつの間にか緊張が解け、とても楽しく、学ぶことがたくさんありました。貴重な体験をさせていただいたと思っています。

昼間の暑さを忘れるくらい、鴨川には気持ちのいい風が吹き抜けていました。納涼の雰囲気も感じながら、夏のいい思い出となりました。

中京支部昼の部　尾島美佳

鴨川納涼って何？

戦後の鴨川は、高度経済成長期で河川敷にゴミが散乱し、夜になれば橋の上から不法投棄され、ゴミ捨場のような状態で、魚も住めない状況でした。

1964 年（昭和 39 年）に地域住民によって「鴨川を美しくする会」がボランティアとして結成されました。当初、年４～５回定例清掃活動（ゴミ拾い）をしていました。しかし、ゴミは減らず増える一方でした。

そこで、1969 年（昭和 44 年）から「鴨川納涼」を開催し、鴨川美化運動の輪が広げられました。

手話関係者の取り組み

「鴨川納涼」に携わっていた方が、みみずく会の会員だったことから「手話ブース」が設けられ、簡単な手話単語を教えるなどを、みみずく会の会員が行っていました。

その後、市聴協と相談し、共同で「手話ブース」を担い、ステージにも手話通訳が付けられるようになりました。

2014年（平成 26 年）から京都府観光連盟が主催することになったことから、その後府聴協と京手連が担当することとになりました。

今年は、京都市内の手話サークル、乙訓手話サークルの皆さんに「手話ブース」のお手伝い、２か所のステージの手話通訳にご協力いただきました。

京都市手話奉仕員養成講座について

京都市聴覚言語障害センターより、京都市手話奉仕員養成事業（前期・入門）における講義講師の依頼が京手連にありました。７月 11 日（火）に２回（昼の部・14 時～、夜の部・19 時～）、手話サークルの紹介についての話しです。

市内サークルの例会開催（昼・夜）に合わせて、話す時間の担当が決められたのですが、みみずく会は昼のサークル、夜のサークルのどちらもありますので、２回とも講師を務めました。

手話奉仕員養成講座に参加して

手話奉仕員養成講座に参加と言っても、私は受講生ではなく、「みみずく」のサークル紹介を１時間してきました。

お昼のサークル「たけのこ」「サンシャイン」「あすなろ‘82」に続いて、みみずく会です。それぞれが、サークルの創立から今日までの経過や、サークルのモットー、特徴の紹介をしました。その後、質疑応答がありました。

昼の講座の受講生は 28 人。ほとんどが 30～40 歳代の女性。以前と比べると少し年齢が高くなっているように思います。でも、私からから見ると全員 20 歳代の若い女性に見えますけど…

その後、「みみずく」の歴史をからめて、手話活動の「楽しさ」や「嬉しさ」について話をしました。そして、受講生の皆さんも一緒に同じ目標に向かって共に歩いていきましょう。そして、みんなで大きな「喜び」を掴んでいきましょう！ と結びました。

感想文を紹介します。

- 「手話で学ぶ」に共感した。手話に一生懸命になるのではなく、手話を使って一生懸命話せるようになりたいと思った。
- 「楽しい」「うれしい」「喜び」の手話表現が勉強になった。行政の現実を知って、レインボー３の活動を応援していきたいと思った。
- 男性の手話通訳の方がものすご～く分かりやすい手話だった。

夜の講座の担当サークルは、ちょっと不明です。「みみずく」は石神さんと竹井さんでした。多くの質問が寄せられていたようです。

南支部　持田隆彦

市聴協・成人講座 「文化のつどい」

８月 16 日(水) 13：30～ 市聴言センターにて、市聴協の成人講座「文化のつどい」が行われました。那須英彰氏による「昭和時代のろうあ三羽烏」（故藤本敏文・故三浦浩・故横尾義智）の講演でした。

【つどいに参加して】

私は 15 分ぐらい遅れての参加、会場についたらオンラインで那須氏がお話されていました。東京から新幹線に乗ったが、静岡県が大雨のため動かないとの事でした。お話しの内容は、「全日本ろうあ連盟」を創るきっかけ等でした。

新幹線が出発しても電波障害の影響か、映像が止まってしまう事があり、そのたびに休憩をしてお話を再開するという事になりました。何度か休憩した後、「予定より遅れていますが、京都に向かっておられます。都合の良い方は残ってお待ちください」との事でした。待っている間は、那須氏の YouTube「海外旅行」の様子を見て待っていました。娘さんと楽しそうに、いろいろな所に行かれて「仲の良い親子だなぁ」と思い見ていました。残念なことに、結局那須氏はいつ京都に着くか分からないとのことで「文化のつどい」は終了となりました。映画の裏話などが聞けると思って参加していましたので残念でした。

南支部　川合久美子

京都 U35 三団体 BBQ 企画開催！

７月１日（土）に、 京都 U35 三団体共催 BBQ 企画を京都駅前バーベキュー場～URBAN EARTH BBQ～で開催しました。 京都府各地から、20 名の参加者で盛り上がりました。コロナ禍の関係もあり、 しばらくこのようなイベントもできていなかったのですが、今回久しぶりに集まって楽しく交流することができました。 ２次会、中には３次会まで行ったメンバーもいて、わいわいと盛り上がり、 皆さんからも「楽しかった～!」とたくさん声をいただき、企画メンバーも嬉しい気持ちでいっぱいです。ご参加いただいた皆さま、本当にありがとうございました。

京都 U35 三団体では、引き続き楽しい交流企画などを立てていきたいと思っています。

～京都 U35 三団体とは？～

京都府聴覚障害者協会、京都手話通訳問題研究会、京都府手話サークル連絡会に所属する概ね 40 歳以下の会員で構成している団体で、各団体の代表が Zoom で会議をしながら、情報交換や企画の相談をしています。 京都府手話サークル連絡会の中で概ね 40 歳以下の方がおられましたら、「若者連絡会」というグループで情報交換を行っていますので、ご興味がある方はご連絡ください！

左京支部　中村わかな

〔活動助成金〕　西京支部（火曜）伏見十石舟と酒蔵のある街並み散策

６月 17 日(土)、伏見十石舟に乗ってきました。その後、酒蔵の街並みを歩きながら食事やお酒の試飲、買い物など伏見地域を満喫し、商店街でガラガラ抽選は楽しかった。十石舟では岸辺の紫陽花の花が奇麗でした。舟内では放送で流れてくる伏見の歴史を聞き、三栖の閘門資料館では「伏見のパナマ運河」といわれる閘門の仕組みを模型で確認。また人を運ぶ交通手段として、米・酒など物資輸送にも重要な港だった事など改めて学習しました。

伏見十石舟に初めて乗ったという人が多く、手話べりが盛り上がりました。みみずく 12 名、聴障協６名、お天気もよく元気に歩いて、歩いて、朝９時から午後４時までたっぷり交流しました。

西京支部火曜　成田眞由美

行 事 予 定

- ９月 10 日(日) 国際手話の学習会
- ９月 24 日(日) 60 周年記念行事 日帰りバスツアー
- 10 月　９日(月・祝) 60 周年記念式典
- 10 月 21 日(土) ほほえみ広場
- 10 月 21 日(土) いこいの村まつり
- 10 月 28 日(土) 京通研市内班 医療班の学習会
- 11 月 19 日(日) 手話劇を楽しむ会
- 11 月 25 日(土) 楽しいスポーツ大会
- 12 月 10 日(日) 近畿手話通訳問題研究会討論集会 in 京都

「手話劇を楽しむ会」を観に来てください！

コロナ禍で開かれた昨年の賀茂ライオンズチャーターナイト来賓の挨拶だったと思いますが、その来賓の方は手話劇には関わっていないにもかかわらず「手話劇コンクールはすごく大事な取り組みなので、これからも続けていきたい」と力強く言っていた事を今でも覚えています。

コロナ禍以前は『手話劇コンクール京都大会(と言っても全国大会は無い)』という名称だったんですが、４年振りの開催で『手話劇を楽しむ会』と名称が変わりました。なぜ変わったのか詳しく話せませんが、資金面と賀茂ライオンズクラブも様変わりしたという事、それでも、なんとか手話劇を開催したいという強い思いがあって、あぁ、大事にして頂いているんだなと実感しました。

その他に以前との違いは、コンクールではないという事、リハも含めて１日開催になった事ぐらいで、出演団体のモチベーションは変わっていません。会議名が『手話劇準備委員会』→『手話劇合同委員会』に変わりました。とにかく、良いものにしたい！という強い気持ちで手話劇に取り組んでいるので、是非是非！皆さん観に来てくださいね。

副会長　安政裕之

【編集後記】

先日、たまたまある企業セミナーの講演に参加した。講演の中で印象に残った言葉は、「私たちが進むべき道は定まっていない。真っ直ぐなのか、右に行くのか、左に行くのか。それを決めるのは過去を知ること。先人が何を考え、何を大切にし、何をしようとしていたのか。それを学ぶことで、おのずと自分の進むべき道が見えてくるのではないか」だった。

60 年前、「みみずく」の活動を始めた先人に思いを馳せ、私たちの今後を切り拓いていく。そんな記念行事としていきたいですね。　（ひ）